５．景観賞顕彰式・景観シンポジウムの概要

●日　時　平成 21 年１０月４日（日）～都市景観の日～
●場　所　ルミエール府中
●次　第　景観賞顕彰式　　１３：００～１３：５０
　　景観シンポジウム　１４：００～１５：３０
●テーマ　　２２世紀に残す景観資源
　・基調講演　歴史・文化と共生するこれからの景観づくり
　・パネルディスカッションテーマ
　　府中の景観「いま、むかし、そして未来・・・」
●参加者　１４８名

●基調講演講師

馬場 璋造（ばば しょうぞう）

埼玉県川越市生まれ
株式会社建築情報システム研究所代表取締役
日本景観学会副会長
世界文化賞選考委員
川越市景観賞選考委員会委員長
雑誌「新建築」取締役編集長('72-'90)
「銀座・京橋・日本橋街路灯」国際コンペ審査員('06)
著書：「策あり！都市再生」共著(日経 BP 社)
　　「建築がまちを変える」共著(日経 BP 社)他多数

●パネルディスカッションコーディネーター

千賀 裕太郎（せんが ゆうたろう）

北海道室蘭市生まれ
東京農工大学大学院教授・連合農学研究科長
日本景観学会副会長
文化審議会（文化的景観委員等）
(財)日本グランドワーク協会理事
府中市景観審議会専門部会部会長
府中市第２回景観賞選考協議会会長
著書：「農村計画学」共著(農業土木学会)
　　「よみがえれ水辺・里山・田園」(岩波ﾌﾞｯｸﾚｯﾄ)他多数

●パネルディスカッションパネリスト
馬場 璋造（ばば しょうぞう）氏　　（上記）
高谷 時彦（たかたに ときひこ）委員（東北公益文科大学教授）
杉崎 則夫（すぎざき のりお）委員　（府中観光協会理事）
駒澤 宣明（こまざわ のぶあき）氏
　　（幸町２丁目地区計画を推進する会代表）
佐藤 しおり（さとう しおり）氏　（東京農工大学農学府２年）

第２回府中市景観賞 顕彰式・シンポジウム概要

■景観賞顕彰式

●挨拶：府中市長

皆様こんにちは、市長の野口でございます。今日は大変大勢の方にお越し頂きまして、有難うございました。

本市では、より実効性のある良好な景観の形成に関する施策を展開する為、平成 20 年 1 月 1 日に景観法の規定に基づく景観行政団体となり、同年 4 月 1 日から、運用を始めた所でございます。この度市政施行 55 周年記念事業の一環として、魅力ある景観づくりを更に推進する為に第二回府中市景観賞の発表をこのように盛大に、開催する事となりました。また、皆様からは市内の景観についての多くのご応募を頂き、ここに感謝を申し上げる次第でございます。誠に有難うございました。

本日はこの後に、顕彰式を行いますが、景観賞選考協議会の委員の方々には、応募した景観の中から市民投票や現地調査を踏まえ、厳正な審査の結果、保全・育成・創出等の各部門ごとの優れた景観を顕彰すべく、選出を頂きました事を御礼を申し上げます。

本市と致しましては、本日発表される景観は、市民の誇りである、貴重な財産である事から、これらの景観を活用しこれからも美しい風格ある元気なまちの実現に取り組んで参ります。

府中市は観光や景観の資源が数多くあります。この機会に府中の素晴らしさを見て頂ければ最高でございます。本日はこの後に、22 世紀に残す景観資源について、市民の目から見たパネルディスカッション等も予定されております。是非有意義なお時間をお過ごし頂ければと思います。本日は有難うございました。

●挨拶：府中市議会議長

皆さん、こんにちは。ただ今ご紹介頂きました府中市議会議長を仰せつかっております高野律雄でございます。

今ご紹介頂きました、副議長、また建設委員会の役員長だけで無く、この席に多くの市議会議員の皆さんがご出席頂きまして、代表致しまして一言ご挨拶を申し上げさせて頂きます。

本日は第二回府中市景観賞の顕彰式、景観シンポジウムが多くの皆様ご出席の元で開催をされまして、心よりお慶びを申し上げたいと思います。

景観、景観と一言で言っても、それぞれ一つ一つの施設・建物には、歴史や文化、また人々の日々の生活大変な魅力が詰め込まれているというものだという風に思っております。

そしてそれをただ単に、大切にしていくだけではなく、それに愛着を憶え魅力を感じ、そしてその事がきっかけとなって、この府中というまちを更に愛することでより暮らし易い、まちづくり、より健全な人づくりに繋がって行くんだろうという風に、思っております。今回応募頂きました全ての皆様方に、心から敬意を表すると共に、これから顕彰を受けられる受賞者の皆様には、お慶びを申し上げたいと思います。

この顕彰式、またシンポジウム、広くこの事業の推進の為に、ご尽力頂きました関係の皆様方に感謝を申し上げると共に、ご出席の皆様方の今後益々のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。

甚だ素地ではございますが、来賓としての挨拶とさせて頂きます。本日は誠におめでとうございます。

●景観賞の目的、応募状況及び審査経緯について報告：府中市景観賞選考審議会 千賀会長

千賀と申します。私の方からは景観賞の目的、応募状況及び審査経緯について報告させて頂きます。まず初めに、本景観賞の目的ですが、市民及び事業者に府中の景観を広く知って頂くと共に、景観形成に対する意識を高め、魅力ある景観づくりを推進する為、良好な景観形成に寄与している建築物・工作物、土地等の所有者、設計者及び活動を行っている方々を顕彰するということを目的としております。

続きまして本日までの経緯ですが、景観の応募は本年 3 月 1 日から 5 月 11 日までの約 2 ヶ月間行いました。その結果、204 件の応募がございました。その後、第一次選考を 6 月 11 日、25 日の 2 回に亘り行いまして、54 点の景観を選出いたしました。この 54 点の景観につきまして、市民投票を行いました。期間ですが 7 月 6、7 日

の 2 日間は白糸台文化センター、7 月 8、9 日の 2 日間は西府文化センター、7 月 14、15、16 の 3 日間フォーリスで行いました。市民の方々に 1 人 10 枚のシールを配布し、都市の景観に貢献していると思われるものに対しまして、シールを貼って頂くと言う方式で行いました。

その結果 2,429 名の方に市民投票に参加して頂きまして、シール総数 23,841 枚シールを貼って頂きました。大変大勢の方に参加して頂き、参加して頂いた方々に厚く御礼申し上げたいと思います。

続きまして、選考協議会の委員によって、現地調査を 7 月 27 日、8 月 3 日、8 月 4 日の 3 日間に亘り行いました。この市民投票及び現地調査を踏まえ、第二次選考を 8 月 19 日に行いました。その結果 30 点の景観が選出され、本日顕彰を行う運びとなりました。

各部門の構成等につきましては、この後、竹内副会長から報告して頂きたいと思います。ご応募及び市民投票に参加して頂きました市民の方々に厚く御礼申し上げたいと思います。また、この景観をずっと長い間、管理して頂きました市民の皆さんにも厚く御礼申し上げます。

●景観賞の構成、部門について報告：府中市景観賞選考協議会 竹内副会長

選考協議会の副会長の竹内です。よろしくお願いします。

それでは私の方から、景観賞の構成につきまして報告させて頂きます。今回の第二回府中市景観賞では、府中市景観賞選考協議会におきまして、景観づくりの考え方、それから景観賞のあり方等につきまして、審議を重ねた結果、優れた景観を守るという景観保全部門、それから優れた景観を新しくつくるという景観創出部門、景観を育てるという景観育成部門、それから景観を改良していくという景観改善部門、それ以外の審査員賞の 5 つの部門を設けて、府中市景観賞選考協議会において選考いたしました。

なお、募集の段階では、応募者が部門に囚われることなく、応募者のお気に入りの景観について、自由に応募して頂けるように、特に部門については公表いたしませんでした。

それでは各部門の構成について、報告させて頂きます。1 つ目は、景観保全部門です。これは、良好な景観の維持及び管理が行われており、今後も長く保全が望まれるもの等で、具体的には由緒あるお寺、歴史的建物、それから守っていきたい里山や故郷の田園風景等が含まれます。

2 つ目は景観創出部門です。これは、新しくつくられたもので魅力的な景観形成に貢献し、地域の人々に親しまれ、今後活躍が期待される活動等で、具体的に申しますと地域の魅力を引き出し、魅力的な景観形成やまちづくりを行い、それを付随させる施設や地域活動等が対象となります。

3 つ目は、景観の育成部門です。これは、魅力ある景観の要素を持っており、その景観を広める或いは質を高める等の育成を行う事により、今後更に推進する事が望まれるもので、具他的には、まちづくりや景観の育成、緑化等の提案や活動を行っている方が対象です。

4 つ目は景観の改善部門です。これは、より良い景観形成の為に外観やつくりを変更したり、景観を向上させるような建物や施設で、今後市内に広まる事が期待されるもので、具体的には老朽化した建物や、状態に配慮して改善をした建物や敷地の景観等、まち並み景観の向上に貢献したものが対象です。

それから 5 つ目は審査員賞です。これは、先程の 4 部門以外で、特に良好な景観に対する配慮がなされ、その取り組みが広まる事が望まれるものです。以上が対象となります。

以上の構成を踏まえた上で、応募されました 204 点の景観を分類し、その後第一次選考、市民投票、現地調査、そして、第二次選考の選考を重ねた結果、景観保全部門では 16 点、景観創出部門は 6 点、景観育成部門は 4 点、景観改善部門は 2 点、そして審査員賞は 2 点、計 30 点の景観を顕彰する事になりました。各部門の受賞対象になりました景観に関してはこの後順次(p.3～19 を参照)発表させて頂きます。

●講評：府中市景観賞選考協議会 並木委員

それでは私の方から講評をさせて頂きます。私は、府中市景観賞選考協議会の委員を務めております、むさし府中商工会議所の副会長の並木でございます。宜しくお願い致します。

今回皆様方にご応募頂きました景観は、どれも府中市の景観に寄与されており、全ての景観を顕彰しても良いのではと思う程選考は困難でしたが、その中でも特に景観に寄与しているものを選出させて頂きました。

選考にあたっては選考基準、市民の投票のやり方や 2 次選考の在り方等について、各委員から活発な意見を頂きました。現地調査では市民が活動を行っている景観について、多くの市民からの説明を聞く等、実際に各委員が現地を見て調査を致しました。

周辺との調和等を確認でき、どの景観も府中の良好な景観に寄与している事を実感致しました。今回表彰されました景観につきましては、観光及び商工業等とも連携し、市内外に配信して頂ければと考えております。

また、府中市を代表する景観として、今後も保全、育成される事を期待しております。今回、多くの景観を応募頂きました皆様方につきましては、大変感謝申し上げますと共に、引き続き第 3 回の景観賞が行われますように、期待をするものでございます。

この会を通じて今後とも府中市の掲げる、「美しい風格ある元気なまち」を目指したまちづくりを進めて頂くと共に、後世に残せる風景づくり、新たな景観づくり、市民、事業者、行政が一体となって進めて頂くよう宜しくお願い致します。本日この様に、景観賞顕彰式が開催され、関係者の皆様に感謝を申し上げますと共に、ご列席の皆様には心から御礼を申し上げまして講評とさせて頂きます。有難うございました。

■景観シンポジウム

●基調講演：馬場璋造氏

ただ今ご紹介頂きました馬場です。先ず初めに景観賞を受賞された方々に心からお喜び申し上げたいと思います。そしてまた、この様な取組みが、今こうして熱心に、しかも大変精力的に、大変深いレベルでお考えになられている、府中市の市長さんを初め職員の方々に、これは大変素晴らしい事だと思いました事をお伝えしたいと思います。また、大変きめの細かい景観賞、これをお考えになり、また実行されました、景観賞選考協議会の方々に敬意を表したいと思います。

今回、大変きめの細かい選考を、幅広く、それこそ大國魂神社から府中刑務所の塀まで、大変幅広く奥深いものがある府中市でされたという事に、大変敬服しております。

こうした景観の問題は、景観とは何だろうという事があります。景観に対応する良い言葉が英語もドイツ語もフランス語も無いんです。日本語の景観を和英辞典で引くと、Scenery という言葉です。Scenery とは映画のシーンと同じ、それが連続するって意味の Scenery なんですが日本で考えた訳であって、向こうでは通じない。

専門用語では landscape それから townscape って言い方する人も居ますが、それも両方とも当たってはいなくは無いけれど、それで全部景観を言い表しているかと言うと、決してそうではないです。

Landscape は、どちらかと言うと、自然の景観、或いは人間が作った緑の景観、こうしたものに関して言いますし、townscape って言うのは、街の風景、懐かしい景観、そう言う意味で向こうで townscape と使う訳です。

十数年前、今の産業経済省の国際景観シンポジウムでコーディネートを頼まれて、その時に景観って何て言うか考えたら答えが無いんです。だけども、自然景観それから都市景観という事で、その時には、Urban landscape と言う言葉を使いましたが、その後日本で、国際景観シンポジウムがあって、いろんな国の人が来て、その時に日本の我々は所謂美的な感覚を含めた景観と言う話をするんですが、外国から来た人は例えば川の治水をどうするかとか、それから landscape はどう言うふうにするかと言うことだけなのです。都市景観、所謂美的と言うものは殆ど入っていません。こう言う違いが今でも実は厳然としてある。美的な感覚も含めて景観と言うのは日本独特の考え方です。これは決して日本が遅れている事かと言うと、そうではない。

むしろ外国で古い町に色々新しいものが入ってきたり、或いは自然の景観の中に新しい人工物ができるという状況がありますが、彼らはそれを景観と言う言葉では受け止めないで環境と言う言葉で受け止めたんです。

海外で一番感じるのは、景観と言うよりも自分達の街のあり方、それから今自分達が住んでいる場所の自然の風景、そうしたものに皆さん誇りを持っているんです。結局これが本当ではないか。このように、新しいものが出来ても、それを決して悪いとか言うよりも、誇りの中に取り込むような形です。

ただ、ある意味では、それが良くない場合も当然ある訳です。私は、建築が専門なんですけども、建築から見て頑張っているけど、やはり私には相応しくないだろうと思ものを彼らはそれをそのまま受け取っている。

考えてみると、そう言う環境のあり方と言うのは、一定したものがあるのでは無くて、むしろどんどん変わって行く。その変わって行く事自身が伝統であると言う事だし、変わって行く事が景観である。

そういうものをどういうふうに受け止めていくか。勿論古い良いものは残すし、古い良い街並みは残すし、また自然景観というものは守って行く。ただ、守って行くと言っても自然景観もだんだん年数が経てば、やはり変わりますし、色々な事があり、サイクルがある。そういうものにどう対応して行くか。

しかも人間というものは、創造性と言うものは皆さん誰しも持っているもので、決して真似をしたくないんです。何か新しいものをやろうとします。

私は碁をやるんですが、真似碁というのがありますが、碁をやる人は真似碁は出来切れない。精神的に耐えられなくなるんです。これは建築でもそうで、何かのデザインを真似しようと思うとし切れない。何処かで真似をしようとしないで外すんです。そうすると大体元々の発想とする所が間違っていて、良い建築にならないことが多い。でも、そう言った創造性、これは人間の本能ですから、そういうものとも付き合っていかなきゃいけない。

これが環境を進めて行くことでもあり、また景観を作って行く、守って行くというものの中にあるのではないかと思います。先ほど市長さんのご挨拶の中でも、景観と言うものは美しさであり、風格であるとおっしゃいました。これは確かにその通りです。ただそれに加えるとしたら、「魅力」を加えても良いんじゃないかと思います。

魅力というもの、美しさや風格、これは客観的にはなかなか評価できない。ある人は美しいと思ってもある人は思わない。ある人は風格と思ってもある人は思わない。魅力というものは、個人個人が感じるものです。

これは個人が感じる喜びに対して、あるいは癒しになると思いますが、そういう事を感じる。この 3 つが総合される形で、景観と言うのがあるんじゃないかと。

日本の場合、外国よりも、誇りと言うものをなかなか持てない場合って言う事がありますけども、常に新しいものを作って行くという事、それから反省すると言う事、そしてハイブリッドと言いますが、違ったもの上手く繋げて行くと言うもの。そうしたものが日本の場合上手いわけです。

実際に住んでいる環境、街づくりでは、決して守って行くだけではなく新しく作って行くだけでも無い、そうした新しいものと古いのとをいかに、上手く両方を活かしながら、ハイブリッドして進めて行くかって事が、これがこの住んで行く環境を作る一番大きな問題ではないか、と言う事が言えるのではないかと思います。

景観のことをいう場合には、3 つのあり方があります。これらは同化する、英語で言うと Assimilation ですが、もう 1 つが調和これは Harmony、もう 1 つは対比これは Contrast、この 3 つがあります。

同化と言うのは、例えば古い街並みでは、やはり同化をする形で、街の中をどういう色を使っているか、これがかなり大切になって来ます。

その街の価値に、特にそこの街に住んでいる人たちが、その街並みに対して誇りを持っている場合、それに対してやはり敬意を表すると言う事で、それは街並みだけでなく、自然景観だとか、皆が、多くの人が素晴らしいと思うような景観がある場所と言うのは、そう言う事を尊重して、どう同化するかっていう事が大切です。

次が調和 Harmony で、これは景観ではよく出されるんですが、実は Harmony と言うのが一番難しいんです。調和をすると言う事は、簡単なようで実は大変難しい事です。これは逆に言うと、大変安易に描いてしまうことがあるんですね。これは調和しているから良いというと、決してあまり良いものではないものなんです。

音楽で考えると、全然違った音を組み合わせても決して良い音にならない。やはりある程度のルールがあって、その中で和音というものが出てきます。これが調和ですけれども、建築の街づくり、これはなかなか難しい問題があるんです。例えば色彩の問題、或いは屋根の問題、或いは材料の問題。これはある意味では有効な部分になりますが、ある程度以上になると、それは通用しなくなってしまう。これは何故かといいますと、ものには、物理的・数字的に決められるものと、数値的に決められないものがあるんです。

音楽とか文学とか、彫刻とか絵画とか、決して、数値では決められないものがあるんです。そうした事をどうするか、そうしたものが調和と言う事に、関連する形で大切な問題としてあります。

もう 1 つは Contrast、これは対比をする事です。外国の建築家と話をすると、日本の建築家の場合、調和って言ったり、周りの環境は悪いけど、自分のは良いのでこれは周りも良くなった、という言い方をしますけれども、大体掃溜めの中のひとつになってしまう。これは、変わったものを作れば良いのではなくて、本当に優れたものは何かと言う事なんだと思います。

外国の建築家の場合、大体皆、対比、いかに Contrast をつくるかということを考えます。Contrast と言うのは、ただ変わったものを作ればいいのではなくて、日本の建築家以上にもの凄く、環境を分析するんです。その環境を分析して、その環境を次の時代に残して行く為には、ここにはこう言うものがあるべきだという。

これは勿論その個人のデザイン力がありますけれども、そういう事を客観的に見せる、それだけの資料を揃え、またそうした形でのデザインを示す事で、それが市民にも納得してもらい、できていくことがほとんどです。

こういう形で対比、これは決して避けて通れない問題です。自然環境の中で同化と言う Assimilation ですけれども、むしろ Contrast の問題ともいえます。例えば自然の風景、自然の公園。奈良の公園など、これは正にコントラストの問題なんです。五重塔等そうしたものが時間が経ってくるとそれが同化して、1 つの風景になっている。

例えば、ライン川の畔にあるノイシュヴァンシュタイン城、山の上に緑と全く対照的な、城が出来ていますが、逆に景色を引き立てている役割があります。これは皆さん旅行すれば分かると思うんです。ただそこに調和をしたり、同調するだけではなく、本当に新しい魅力を作ることが、その環境をより良くすることなのです。

こう言う事は、是非考えておかないといけないと思います。そして、先ほど言ったデザインの質、いわゆる数値では、測れないものをどうするかと言う問題。これもやはり大きな問題です。

1 つ例を挙げたいと思います。私と千賀先生が副会長をしている日本景観学会がありますが、その初代会長が、私と同い年のこのあいだ亡くなった、黒川紀章さんです。彼が 30 年ぐらい前ですけれど、イタリアのある市からシティアーキテクトの依頼を受けたんです。シティアーキテクトと言うのはそのまちに建つ主要な建築或いはその街の景観をどうつくっていくか、そういうものに対してアドバイスをする役です。

黒川さんは大変演説も爽やかで、自分の考えを述べたんですが、最後に一言余計な事を言ったんですね。

「私は皆さんの意見を十分に聞いて、この街を良くしたいと思います。」って言ったらぱっと手が上がって、いや、何を言っているんだ。我々は世界的建築家である黒川紀章と言う人間を信じてシティアーキテクトを頼むんだ、我々の意見を聞いてくれるとは何事だ、と言われた訳なんですが、これは美という事は、例えば絵画とか彫刻とか、それが良いか悪いか、その道の専門家、或いはそれに対して学識の深い人が、その事に対して考えて、またそれが社会的に認められる。そうした人がそれぞれにいるわけです。

そうしたシティアーキテクトが、まさに街のあり方、環境、一般の市民の意見を聞くのでは無く、その人の意見が良いと、その市民が代表である市長をもって、市議会が承認すると言う事によって、その立場で何年間か、その市の景観について考えるのです。

日本だと昔、連歌の場合、宗匠、いわゆる連歌が良いか悪いか判断する連歌師がいて、芭蕉もその一人だった

訳なんですが、その専門に関して質的に高いと言う事を皆さんが認めることで成り立つ訳です。
　そうした形でのあり方。これはやはり、これからの景観を考えると、数値で出来るのと、そうでないものと、そうした事を是非考えていかなくてはならない。数値化できないものを分ける事、自然景観と人工景観、これは決して対立するものではなくて、一緒に仲よく出来るもの、むしろ両方緊張しながらより良いようにして行く。それによって自然もより良くなれば、人工物もより良くなる。もちろん全く手を付けないという事も当然あり得ます。また、そうした判断を的確にしていく事、これがやはり自然景観を作って行くことではないかと思います。
　駅からここまで歩いてきましたが、桜並木、ケヤキ並木、大変素晴らしい緑が、本当に景観の１つの大切なものになっていますが、建築に対してはなかなか良い判断が出来ない。
　先程もスライドを見ていたのですが、残念ながら建築に関しては、3 分の 2 以上私が見ると落第なんです。こうしたものはいらないのではないかと言うものが実はある。
　専門の人の意見をいかに取り入れて、それを市民の合意にどう取り入れて行くか。この辺が一番です。
　そして、市民の方々の、景観に対しての意識をどう高めて行くかと言う事が大切じゃないかと思います。
　この景観賞というのは、大変有効だと思いますし、川越の場合は隔年ですが、続けていくと対象が少なくなってしまうというおそれがあります。しかし、そうではない。よいものには続けて与えてもよいのです。
　例えばミシュラン。あれは１つ~3 つ星ありますが、毎年同じ所が出ているのもあれば、3 つ星からに 2 つ星になってしまった所も、或いは１つ星が無くなったと言うような形でやっています。
　先程景観育成部門がありましたけれども、その景観の評価と言うのは、年によって当然変わってくると思います。樹木を育てたり、枯れて来ますし、新しいものが出来たり。
　それから先程から見ていますと、非常に美しい桜とかの写真がありますが、或いはそう言う写真のコンテストと言うのは、景観に関した写真のコンテスト、それも大変重要な事になると思います。
　またこれからみなさんのお話が出ると思いますが、景観シンポジウム、こうした形で景観を話し合う、これは有識者の場合もあれば、もっと違ったような形があるんじゃないかと。そうした形で出来るだけその景観ということに対して、継続した形で皆さんのご意見を、監視を続けて、しかも高めることが大切です。
　そうした事を是非、続けて行かれる事で、私が今日お写真拝見しましても、府中の場合、大変高いレベルでの景観要素がおありだと思いますので、そうしたものを景観だけではなく、環境として上手く活かして誇りを持てるような、府中と言う街がこれから出来て行く事を、是非期待致したいと思います。
　今日の市長のお話も簡潔で、素晴らしいと思いました。そうした形で、是非良い街づくりを行える事をこれから期待して、私の挨拶にかえさせて頂きたいと思います。どうも有難うございました。

●パネルディスカッション説明：　千賀会長
　それでは、パネルディスカッションを始めさせて頂きますが、まずそれぞれの方から今回の景観賞顕彰式に出席されての感想や或いは普段、景観について思っておられる事についてのお話を頂きたいと思っております。

●高谷委員
　皆さんこんにちは、高谷と申します。私は、活動のベースが建築という事で、景観を考える時、建物が１個１個できてくることによって、街が少しずつ良くなっていく、そう言う方向を是非目指したいと考えています。
　今日の景観賞の中にも、保全部門とか育成部門、改善部門等々あるんですが、私は気持ちとしては、その創出部門で何とか少しずつ街を良くしていけないのかって、そんな事を考えています。それでは、そういう取組みは 20 数年前からいろんな自治体で行われています。では街は 20 年前から良くなって居るのか私はいつも考えてしまうんです。
　日本の街というのは、短くて恐らく 30 年前後で建物が平均寿命を終えているんじゃないかなと思います。
　そうすると 20 年間、かなりの建物が建て変わっている筈なので、相当良くなって無いといけないと思うんですが、残念ながら、必ずしもそうとは言えない。非常に良くなっているものもあり、それが今日の表彰式で顕彰されているのですが、全体では必ずしも建物で作られる街並みが良くなってないんじゃないかと、私は少しそんな否定的な感じを持っています。例えば甲州街道等は、マンションがどんどん出来てきて、街並みが一新されている。皆新しく作られている訳ですから、相当良い街並みになっている筈なんですが、良い建物も沢山あると思うんですが、全体を見た時に、これが街を代表するようなものとして、成熟していないんじゃないかなと、残念ながらそんな風に思っています。
　そういう事で私日頃、何度か建物の更新と言う行為を積み重ねて、景観がよくならないかと考えているんですが、いろんな自治体のお手伝いをする中で、考えた事を 3 つ程今日お話したいと思います。
　これはある地方都市なんですが、ここに１戸建ての住宅があって後ろに大きなマンションが建っている。
　同化させたりコントラストを付けたり、調和させたり色んな事を景観的には考えていかないといけないのですが、これだけ大きなボリュームの差があると何ともし難い所がある訳です。
　道路があって非常に大きなマンションがあって、こちら側には１戸建ての小さな家がある。これだけ大きなギャップがあると、なかなか景観の美しさとか、居心地の良さとかを目指そうとするのは難しいです。
　これもある地方都市ですが、こちらの建物は、道路に面して建物の立面を合わせる、昔の建物で言うと町屋のような形式で作られています。それに対して、こちら側にありますのは、この建物があってそれの前に空地を取るようなタイプで、実は建築的に見るとこの 2 つのタイプというのは、全く建築の考え方、思想が違うんです。

道路に向って建物を並べて行くとか、或いは敷地の中で自由に建てて行くのかって言う、全く発想が違う。

私は、このような規模の大きな差、或いは建築における思想、建てる時の考え方の差、そう言ったものはある程度都市計画的な枠組みの中で調整していかないと、どうも上手くないんじゃないかと言う事を思っています。

それが第一番目の事です。建物の建替えを機に、良いまち並みを作りたい。私たちも設計者として出来るだけ良くしたいと思っています。先ほどの例えの中で、語られた方もすごく良くしたいと思っていると思うんです。

結果的にいうと非常に、はっきりアンバランスな状態が出来てきた、これはやはり基本形状に関するルールと言うものがいるのかなと思います。

2 つ目は、日本における街並みの変化が早過ぎるんじゃないかと、まち並み或いは風景の成熟には時間が必要だという話です。これは山形県のある都市の写真なんですが、「おくりびと」と言う映画がアカデミー賞外国語部門を受賞したと思います。この映画は、何であれだけ人々の共感を得られたのかという、東京で主人公が夢を諦めて、山形の田舎に帰るんですが、根本的に背景にあるのが、街が主人公が東京に出て行った時も、帰ってきた時も全く同じような風景で、迎え入れてあげたというのは、非常に大きな要素になっていると思うんです。

こういう風に、風景の非常に安定した形が残っている事は人間にとって、非常にそこに帰属する気持ちを持つ事が出来る。心の拠所にする事が出来る。そういった意味で非常に大事な事だと思うんです。

私、さっき建物が建て変わって行く事によって景観も、それを機会に良くすれば良いって思っていたんですが、あまり早いと、自分の街って何かって分からなくなる。

府中市はまだどんどん人口も増えていると市長さんが仰ってましたが、その中でどんどん変えて行かなきゃならない時期ではあると思います。その中でもある人々の記憶にあるものを、上手く作り直して行くのが大事な事なんじゃないかなと思います。ただ、これは社会意識の問題で、非常に変えて行くのが難しい問題でもあります。

実は私、この山形県のある街で、木造の工場を改装して、映画館を作る計画を今やっています。ところが、実は補助金がないと言う事で、中央官庁にもお願いに行くんですが、中央官庁では古いものを直すとお金が掛かるから、新しいものにしなさいと、そうやったら安くなるから、そう言うサディスションを、賛同を得ようとしている人には言う。これなかなか社会が変わって行くのは難しいんです。

3 番目の話、実は私は、建物を良い街を創って行く為には、先程、馬場先生がちょっと触れられましたが、地域に継続的に関わって行く専門家というものが非常に必要だと思います。

この市民参加の時代、市民が主役の時代に何を専門家というのかとお咎めもあろうかと思いますが、それは先程馬場先生が説明して下さいました。色々成功している、景観的にも街並みを上手く作っている所に行くと、やはり実は専門家が沢山いる。役所の中にも、市民の中にも居る。その姿にいつも感動させられるといいます。

専門家は、きちっと自分の宅地とか設計とか、デザイナーとしての見識を持って街づくりに望んでいると、それはいつも関心をさせられています。

実は私達、市民の専門家としてこの街の設計に関わろうという事で、府中建築文化交流フォーラムという NPO 団体をやっています。その中で専門家として、このまちに提案したい事を少しご紹介したいと思います。

これは航空写真です。私が府中で住んでいた、今調布に引っ越したんですがこの場所が、たまたま、府中崖線というのに丁度、私の家がくっ付いていた事に改めて気が付きました。

人間と言うのは、その景観という美しさを求める、安らぎという場所を求める。私にとって府中崖線は、そう言うものだったのかなと。色んな人が帰属意識を持てる場所、イギリスの公園なんかだと、色んな勝手な事をやって集団で個人でもいる。その場所を愛している。

そこに自分が帰属していると言う感覚を持っていることが、外国から行った人にも非常にこう良く分かります。

そう言うものが街の中にあるというのは、凄く大事な事なんじゃないかなと思います。府中は大変そう言う意味では資産が沢山あるので、そういったものを上手く育てていく事が、必要なんじゃないかと思います。

府中建築文化フォーラムで、日本建築学会のコンペがあった時に、皆で作った案を説明したいと思うんですが、こういう崖線があります。この崖線は皆さんご存知の通り、はけの道とかいききの道と言われています。こちら側は高い方です。丘陵地の方ですが、こちらにも農家の屋敷林があって、こちら多摩川です。

この斜面には緑地があって、風景の非常に安定したものがあったんです。これは昔の地図、航空写真です。写真で見ると非常にはっきりします。崖線があって、昔の北多摩の駅ですね。甲州街道、留置場だと思います。こちらが水田になっていて、上には畑があって、下から見るとこういう崖線が、涌水が下にあったと思います。

ところが現実には、崖が使いにくいとう事だと思うのですが削られちゃって、アパートとかマンションとか建っているんですね。

このように削り取っちゃって、崖を保全しないといけないと言う安全性の為にやったんだとは思いますが、そういう所を広場にしたり、広場は大変良いと思うんですが、残念ながら元あった崖線は無くなっちゃっている。

そういう時に、保全をするだけではなかなか上手くいかなくて、先程から言っているように私達は、建物を建替える際にアパートも建て替えるわけですね。そういう機会を見つけて、何とかもうちょっと、違う有り方が無いかなと、そういうのを提案するのが専門家の役割じゃないかなと。

それで、もしかしたら地主さんの関係の方もいらっしゃるかもしれませんが、こういう崖に対して直角に土地をお持ちなんですが、崖の上も下も元々は同じ方が持っていたという事なんですが、そう言ったものが今アパートになったり、こう斜面を削り取られたりして、マンションになったりしているんです。

それを建替えるのであれば、もう少し斜面を回復する、湧き水を回復するような建て方が出来ないかという事を考えます。それによって、今すっぽりと緑地の繋がりが抜けているものを変えて行く事が出来ないかと。

これは大げさかも知れませんが、多摩川の方から見ると、昔のこう緑が繋がって、ここにマンションとかが多

く建っているんですが、それをこう緑に馴染む様な形式にすると。そういう事を実は出来るんですよって、そういう事を専門家として、地域に発信して行きたいというか、そんな活動をやっております。

以上この 3 つ。私 20 年ぐらい色んな自治体とか、或いは設計活動を通じて、景観作りに携わって来たんですが、必要だと思われる事。1 つ目はやはりルールが要るんじゃないかと、2 つ目はやはり街並みの整理、成熟には時間が掛かると言う事、それと 3 番目には専門家が地域に継続して関わって行かないといけないと言う、3 点を感じております。その事をお話させて頂きました。どうもありがとうございました。

●杉崎委員

私は専門家ではありませんが、気が付いた事、或いは今まで考えた事をまとめて発表していきたいと思います。

私が観光協会の理事にならないかと言われたのは約 4 年ぐらい前です。その時に、観光にとって本当に大切な事って何だろうと、どういった観点で観光と言うものを捉えたら良いか考えました。

府中市は、なんといってもくらやみ祭りがありますね、それから他にお祭りとかイベント、一年を通して市内外からのお客さんで賑わいを見せていますが、皆さん何を求めてこのまちへ来てくれているんだろうと。本当に大切なのは、その方達に差し上げるものは何かという事を考えなければならない。このまちに来る目的、或いは何によって、満足感を得て頂いているかという事です。ここで、ある程度当たっているかなと思われた私の体験をご披露したいと思います。

私はサラリーマンの時に、会社の命令でメキシコという国へ駐在員生活を送っておりました。日本に戻ったのが 1994 年です。その 1 、2 年ぐらい後、たまたまラジオで耳にした当時の日本人の海外旅行に関するアンケート。行ってみたい国の 1 位がメキシコだったんです。次に二度と行きたくない国、これも第 1 位がなんとメキシコなんです。また行きたい旅行先第 1 位はオーストラリアです。

ちなみに最近では、行った国の 1 位が中国、香港を含めても第 1 位です。アメリカが第 2 位で、3 位が韓国、続いて台湾、ハワイ、グアムであり、行きたい所は何処かって言うとイタリア、フランスだそうです。

当時のメキシコは何でそんなに人気が無かったのかと言いますと、街の汚さですね一番。ゴミが多い。それに加えて治安が悪い、とりあえず観光地でも、人の人心の荒廃というのがあったと思います。

なぜ行きたい所で第 1 位かというと、写真で見るとカッコ良いですよね、凄く海岸が美しくその勢いで第 1 位。

メキシコ政府は当時、観光立国を宣言しておりまして、シーズンが非常に短い。夏場だけ或いはクリスマス休暇だけですから、その間に一気にお金を稼ごうとしてました。価格は当然二重価格です。それが 1.5 倍ぐらい値段が高いんです。そういう短いシーズンで一気に稼ごうとする。それがまちをおかしくしているんじゃないかと。

オーストラリアの魅力というのは、当時からオーストラリアの政府の観光当局って言うのは、また来たくなる国、或いはまた来たくなるまちの第 1 位と言うのを目指して、観光行政を進めていたと思うんですね。

いまだにホームページを覗くと、そう言う意思が明らかに見て取れる。やっぱり汚れた街とか、治安の悪さは致命的です。これはヘリングさんの「割れ窓理論」を出す事も無く当然の事だと言う気がしました。

旅番組とかテレビで見ていますと、景色が良いとか距離が近いから行くとかがコメントです。やっぱりまちが綺麗だから行きたいと。若いタレントさんは、東京ディズニーランドが一番好きだそうです。何でですかと言ったら、アトラクションとか何かじゃなくて、とにかく綺麗です。

この東京ディズニーランドも、夜間に閉演した後に、徹底した掃除とかメンテナンスをやっているらしいです。

やはり綺麗と言う事です。如何に変えがたい観光資源なんだなという風に思う。風光明媚だけが観光では無いと考えた方が良いんじゃないかなという気が致します。

府中の話に戻りますと、多くのイベントやお祭りで、お神輿とか太鼓踊り或いは、野菜とか、いわゆるものとか事に加えて、整備されたトイレとか、ゴミの無い綺麗な道路。統一性の或るわかり易い案内や表示、これに加えてまちの人々。ここの人々の親切な対応というのが、非常に大事なんだなという風に思いました。

つまり、綺麗と優しさが一番なんじゃないかなと。ゴミの散らかった喫煙所とか、その辺にも。何処とは言いませんが、曲がったままの看板とか。良く見かけますよね。街を綺麗にしましょうって看板が汚いまま。まず自分が綺麗にしなさいと。メンテナンスが出来ないんだったら外した方が、まだ綺麗ですよね。

緑の植え込みのままの方が良いですよね。良い景観を作り出すという事は、構築物や自然美だけではなく、綺麗にしているという、或いは綺麗にしようという姿が非常に大切なんじゃないかと思うんです。

そこが好きなまちと感じられて、そこに住む或いは、そういったまちに来て頂けるんじゃないかなと思います。

今朝のニュースですが、イギリスのエコノミストによる自国民であることの誇りの順位が書いてありました。先進 33 カ国中オーストラリアが第 1 位ですね。日本は残念ながら最下位。これは年代を問わずです。その他に、10 代から 20 代までの人で取ったのとありますけども、日本のデータが良くなかったですね。非常に残念です。

もう 1 回メキシコの話に戻りますけど、カンクンの白い海岸線、皆綺麗な景色なんですよ。でも、あそこへ行った時のゴミとか異臭とかいうのは、想像付かないと思います。耐えられたもんじゃないですよ。ですから夜が良いんですよね。100 万ドルの夜景。100 万ドルの昼の景色って無いんですね。それが非常に残念です。

エルビス・プレスリーの映画に登場しましたよね。あそこは元々新しい観光地じゃないですから、元々漁港であったのが開発されて、地元の人達が元々は細々と生活していたのに、急に観光客のマネーが入ってきたという所のそれに浮かれてしまって、駄目になったというような所が、ガンではないかと。

景色と言うのは多少の必要性であって、まちの綺麗さや人の温かさを感じられないと、良い景観と言う事には

ならないんじゃないかなと思う訳です。それで、あそこのダイビングが良いとか、言う事もあるんでしょうけど、それよりももうちょっとまちを綺麗にした方が観光客が入ってきて良い。

しかし、メキシコ人は本当に綺麗好きです。従業員の家に行った時、家の中はもの凄く綺麗。それだけ綺麗にする人が、何で家の外を汚くするのかというのは、どなたか専門家にお聞かせ頂ければと思います。

今年、府中が１つの機関のアンケートで住みたいまち第１位って事になりまして、観光協会の総会の日ですね、丁度市長さんからこの話を伺いまして、市民が自分の住む街を自慢出来ると。

観光と言うといかにも外向きに情報発信しているように思われがちですが、一番大事なのは中に向けてきちんと情報発信して整理してもらう、お迎えの姿勢を作って貰うという事が、大事なんじゃないかなと思う訳です。

そんな視点で、私は観光協会の方に居て、府中と言うまちとかそこで行われるような活動をサポートして行くというような形。府中の固有の風景といいますか、それぞれの家が持っている個性、街並みが持っている個性が上手くマッチしている。橋を渡ってきて、南から来る、そうすると府中の街に入る、或いは甲州街道を東から、西から来る東八道路で来る、国分寺街道を来る、と言った時に府中の街へ入った時に、少し違った匂いがする、違ったまち並みを感じられる、違った佇まいが有るという様な特徴的なものが出来たら、もう少し良いまちと言うか、観光にとっては、分かり易い明るい街になるんじゃないかなと思います。少し欲張りかも知れませんが。私の観光と言うものに対する景観の考え方でした。有難うございました。

●駒澤宣明氏

審査員賞は私ども世話人会にとって、驚くべき受賞でした。馬場先生のお話や、今パネラーの方々のお話を賜りまして、私の持っている景観というものの認識の甘さが、目が洗われるような思いでした。私達が地区計画を実施しまして、今年の春頃、大体見通しが立った所で、これでおしまいにして良いんだろうかと思いました。

これでおしまいにしてしまえば、今住んでいる方は充分認識がある。しかし、次の世代に移った時に、あるいは転入者が入った時に、特別な条件のある敷地だという事が、段々希薄化してしまうんじゃないか。その為に、経過経緯をまとめたパンフレットを作る。それを次の世代までにやれば、非常に良いではなかろうかと。ちょうどその頃に、この景観賞の募集がありました。募集の時に、果たして我がまちというのは、対象になるんだろうかという風な疑問が上がりました。しかし、募集要項を拝見しますと、活動であるとか、将来像に向けた取り組みも、都市景観づくりになるようでしたので、これなら応募してみる価値ありかなという事で応募しました。

世話人会で地区計画を策定しましたが、これは制定されてしまえば、いずれ解散になります。解散してしまうと、今迄のボルテージが段々下がり、次の世代或いは３代目に行く頃には、地区を今の形で次へ送ろうという気風が薄れてしまうのではと思いました。そのため、この小冊子を作り、各世帯に配布する取り組みをした訳です。

これが同じ幸町２丁目にある、コスモアベニューの看板です。私ども地域は、何の変哲も無い地域です。

従いまして転入者、或いは壁の塗り替えだとか、塀の作り変えであるとかという様な、許可の要らない工事をする工事の方がお見えになる時に、特別な地域とは知らないで、規定外のものを作られちゃうかもしれない。

そんな事を是非防ぎたいので、世話人会としては、こう言うものを作るように、行政にお願いしたいんだという事を申し上げたのです。この席でございますが、余分な事を、市長さんにもお願い致します。

これは今お話しした次の世代に送って行くための、経過経緯をまとめたパンフレットでございます。実物はここにございますが、これは市内の図書館にも寄贈されると言う風に、計画課の方からお伺いしています。

このパンフレットには、市長さんのお言葉も頂戴致しました。また、市の助成を頂けることになりました。

市長さん有難うございました。と言う事で、私どもの景観に対しては、このまち並みを次の世代までこのままの形で申し送りたいとこう言う感覚でございます。以上です。

●佐藤しおり氏

東京農工大学の佐藤です、宜しくお願いします。私は大学で都市農業に関する勉強をしているので、今回は農のあるまちづくりという事で、発表させて頂きたいと思います。

今回の景観賞でも四谷のふるさと景観が受賞されていましたが、今後もどうすれば府中市に農地を残していけるのかという事を、現在の都市農地がおかれている現状などを踏まえながら、お話し出来たらと思います。

今日、農地と言うものは、多面的機能を有するものとして、各方面からその有用性が認められて来ています。

今まで言われて来た、この生鮮野菜の供給の他にも、教育文化的な機能や、緑地空間と言う言葉が言われています。特に都市部においては、貴重な緑地や、防災避難場所としての機能も高く評価されています。

東京都が定期的に、都政運営アンケートを行いましたが、東京に農業農地を残したいと思いますかという問いに対して 2005 年度、2009 年度共に、8 割以上の都民の方が残したいと回答されています。そこから、都市住民の農地に対する高い評価が伺えます。

ここでも、残したい理由として、自然環境の保全であるとか、生活の潤い安らぎ、子供の教育とか、後は農産物供給と言った様々な理由で、選ばれています。この様な社会的な流れを受けて、国や東京都でも、段々、都市農業とか農地と言ったものを改めて位置づけて来ています。

まず、国では農水省が平成 20 年度に出した食料農業農産白書で、都市農業の維持振興は重要であると記述していたり、東京都の産業労働局が 2008 年に、都市と農業農地の共生をキーワードにした農業農地を活かした街づくりガイドラインを策定しています。ここから、やはり都市において、農業農地を保全し、またそれらを活かしたまちづくりが求められていると思います。しかし、一方で段々農地は、減少の一途を辿っています。

都市農地減少の原因としては、様々な事が言われていますが、先ずは法律の問題が上げられます。新都市計画法で制定されている市街化区域の指定では、府中市は多摩川以外の全てが市街化区域に指定されています。

その区域内の農地は、基本的に開発すべき農地とされていて、税金や、資産評価も、宅地並みとされています。

しかし、その中でも農業を残していきたい農地には、生産緑地という指定が受けられます。生産緑地に指定されると農地並みの税金や農地としての評価がされるのですが、これに指定される為にも、厳しい指定条件が有り、30 年以上営農しないといけない、であったり、500 ㎡以上が必要であるといった厳しい指定条件があります。

このようにまず、都市農地は法的にも継続が厳しい状況におかれています。この他にも相続が起きた場合には高額な相続税が掛って、結局農地を手放さざる終えない現象とか、農業収入が減少している状況があります。

また、農薬や砂埃等により、近隣の住民とトラブルになるケースとか、農家の高齢化や担い手不足等といった、様々な要因が絡み合って、農地減少に拍車をかけているといった現状があります。

これは四谷の方ですけれども、この様に水田なんかも見られて、緑が豊かな状態にあります。府中市は、この様に豊かな農地が残っているんですが、統計では徐々に緩やかにですが、確実に減少傾向にあります。

また、農家数も年々減少傾向にあり、今は市の総人口に対して、0.2%程の農家さんが残っているという事です。またその平均年齢も平成 16 年度には 62 歳と言う事で、段々高齢化が進んでいる状況にあります。

この様な都市農地の現状を踏まえて、今後農地保全を行っていく為には、まず法律の見直しに加えて、後は農業所得の向上や、非農家の都市農業への乗り換え促進が重要であると言われています。

それに対して、いろんな自治体がアプローチしています。まず、法律の見直しに対しては、平成 20 年度に東京都の自治体が、共同で都市農地自治体協議会を立ち上げています。その年の 11 月には、農水省、国交省が各大臣に対して、都市農地関連制度の改正に関する要望書を提出しています。

また、所得の向上に対し、東京都ではやる気のある農家さんのチャレンジを支援する補助事業を行っています。

最後に非農家の農業への理解促進としては、市民農園や農業体験農園等、様々な農業との触れ合いの場が創出されています。私も農工大の実習田で、NPO 府中環境市民の会の方と、共同で市民向けのお米作り体験を提供する、府中田んぼの学校的なものを行っているので、その活動を最後に紹介して終わりたいと思います。

これは、去年の様子ですが、先ず 5 月にこの様に田んぼに入ってしろかきをしています。小さい子もトンボを持って一生懸命田んぼを馴らしています。6 月には、皆で手植えで田植えをしました。

夏になると、今度は草取りであるとか、手で草を取る以外にも昔の除草機を使って、農業体験をしたりします。

後は畦とか水路で虫取りを行い、お米の穂が出てくる頃には、かかしを作って、田んぼの横に立てています。

9 月には稲刈りをして、刈った稲を稲架にして天日干しにしています。最後 11 月には、収穫したお米をお握りにして、収穫祭で皆で食べました。今年はもち米にしたので、郷土の森でお餅つき大会をする予定です。

以上の様な活動を通して、参加者の方から「お米の大切さ、お米を大切にしていきたい。」という意見や、「ザリガニや蛙、バッタ、蝶々が沢山居た。」とか、泥んこの感想とか、作るのは大変楽しいだけでなく、大変なんだって、様々な言葉が聞かれました。

農業体験は、やはり実際は回数が限られているので、本当に農業の事が分かるのかと言われると、ちょっと難しいですけれど、やはり実際田んぼとか、畑に入って農作業をしてみた事があるかどうかという、その場所で何かを感じ取った事があるかどうかというのが凄く大事だと思います。その実体験に基づいた考えというのがやはり、農地保全を行う上での大きな力になるのかなと考えています。ですから、50 年後も農地を残せるように、まずは身近な食べ物の事であるとか、農業であるとか、近所の農地の事を興味を持って見られる機会を大人が作って、大人も子供もずっと触れ合えて行けたら良いなと考えています。以上、私の発表を終わりにします。

●千賀会長

有難うございました。府中というのは東京都内にあって、珍しく水田が残っている所です。非常に希少な景観要素だと思います。そこでの子供の遊び、子供の学びって言うのが、非常に大事な観点になるかと思います。

それではもう時間なのですけれども、馬場先生ともう一人から今のご発言を色々聞いて、ご感想をお願いします。

●馬場璋造氏

皆様の発言大変に興味深く聞いていました。やはり一番言えるのは何か、景観というのも一本道じゃなくて、色々多様性変化があり、もう 1 つオバマ大統領じゃないけど、チェンジなんですね。どんどん変わっている。

先程高谷さんが言われた、古いものを残すのにはお金が付かない。普通のには付くけど。

それから、田んぼを残すのに上手くいくように、そういうチェンジが早急に必要だという事は、一番強く感じて、それを是非、行政の方で出来るだけ進めて頂きたいと言うのが、皆さんのお話をお聞きした感想です。

また、さっき出ていたんですが、建築に対しては、やはりデザインが良いかどうかなんですね。これが決定的です。例えば、高さや色を抑えても、やはりデザインが悪かったら駄目。デザインが良かったら逆に、その景観を高める事も出来る。これがどうかと言うのは、これは法律では決まらないんですよ。

その辺の所を良く考えて頂いて、数量で決まらないものをどう決めるか、これがこれからの景観の一番のポイントで、そのデザインというものをどう評価するかを、是非考えて頂きたいと思います。

●駒沢宣明氏

今回の地区計画の活動を終わりまして、住みたいまちと言う印象よりも、住み続けたくなるまち、こういうのが、その地区計画のスピリットみたいに結論付けたいと思います。

●千賀会長

ありがとうございました。最後に私なりのまとめをお話ししたいと思います。今まで、景観について色々議論を頂いて、大分深まってきたと思います。見た目の奥にあるものが凄く大事じゃないかという事だと思います。

勿論見た目が景観そのものなんですけれども、それをつくっていくプロセスや、或いはそれを支える方々の活動、更に、その景観のある土地の形状やその土地の利用の計画の有り方、こう言うものを総合的に考えて行かないと、なかなか景観と言うのは良くなりません。

そういう意味では、今日色々な観点が出ましたが、観点がばらばらだったと言うわけではありませんが、それぞれが景観に影響を与える要素だと、ご理解頂きたいと思います。所謂、縦割り行政と言われてきましたけど、そうでは無くて、景観に向って、様々な関係部課、あるいは市民、業界の団体の方々が同じ意識をもって、取り組む事が必要では無いかと思っております。

それと先程、子供の農業体験の話がありましたが、私の研究の中で１つ面白い結果をお伝えしたいと思います。

外で良く自然と触れ合って遊ぶかどうかによって、まちへの関心、住み続けたいという意識に大きく影響を与えるという結果が出ております。小学校 4、5、6 年の子供達に、いろんな市や町でアンケートを取りまして、良く外で遊ぶと答えた子供と、そうではない子供の中に、まちへの愛着、この街が好きですかという回答に優位の差が生じたそうです。そして、この市に住みたいですかと言う回答にも、優位の差が生じます。

これは驚くべき事だったんです。そしてその父兄の方にも聞いてみたんです。子供の頃に良く外で遊びましたかと。良く遊んだと言う父兄の方は、まちづくりに関心があるという。これまた優位の差が出ます。

そう言う意味では、景観の問題と言うのは人々の問題であって、人々がその地域にどれだけ関わるのかというのは、非常に大事な問題になってきます。その事を最後に発言させて頂いて、このシンポジウムのディスカッションのまとめとさせて頂きたいと思います。どうも皆さん今日は、ご参加有難うございました。

●閉会の挨拶：府中市景観賞選考協議会 亀山委員

長い間、府中市の景観審議会の会長を務めてきたところで、去る５月に市長さんから表彰して頂きまして、有難うございました。

皆さんご存知のように、わが国の鉄道は東京駅を中心にしており、全てが東京駅を上り方面にしておりますが、唯一、東京駅を下り方向にしているのは武蔵野線だという事をご存知でしょうか。武蔵野線の上り方向の終点は、府中本町なんですね。とても気分の良い電車です。東京は徳川幕府が江戸を開府してから、たかが 400 年しか経っていない。でも府中は武蔵国の国府になってから約 1300 年の歴史がある訳ですから、ここが上り方向だと言うのは、僕は当たり前の事なんです。そういうように府中は非常に、長い歴史のあるまちだという事を意識として共有する事が、大事じゃないかと思います。

645 年の大化の改新から、国府が置かれるようになり、徐々に整備されて参りまして、来年は平城京遷都 1300 年を迎える訳です。武蔵国というのは今の東京と埼玉県を含む大きな国でしたので、国衙、官庁街ですね。官庁街ともう１つ国分寺を作りましたから、国分寺の規模というのは全国で屈指の大きさの国でございます。

その国衙の様子が、近年非常に良く分かるようになって、明らかにされて来ております。でも、なぜこの広大な武蔵の国の国府が府中のあの場所に置かれているのか分からない。これは謎です。

その手掛かりになるものが、市長さんのお話にもありましたし、景観賞の対象にもなりました熊野神社の上円下方墳ですね。上が丸くて下が四角なんですが、この古墳です。

全国で、上円下方墳は 5 つしかございませんが、これは非常に残り方が良かったんで復元が出来た訳です。

古墳時代に古墳が多かったのは、今の埼玉県のあたりで、権力者が埼玉県に多かったんですね。当然、古墳はあっちへ行くと思われたかも知れませんが、古墳時代の最後、飛鳥時代になってから、この古墳が作られた。

熊野神社のあの場所に作られた訳でして、多分この方が国府を持ってきたんじゃないかと言っている私の友人がおりまして、そうじゃないかなと思っている。ことによると、武蔵国の国府を府中に持って来た大物だったんじゃないかと思って、これを見るとなかなかこうそう思える。きっとそうじゃないかなと思っている訳です。

このまちの歴史が１つずつ明らかにされて来ておりますし、益々素晴らしいまちになって来ていると思います。歴史と自然に彩られた素晴らしい景観を共有する、そんな記念の議論を皆さんと持つ事が出来た訳です。

本日は有難うございました。府中市景観審議会を代表して、御礼申し上げます。これを持ちましてこの会を閉会いたします。有難うございました。

６．選考協議会委員名簿

	亀山 章（かめやま あきら）	東京農工大学名誉教授
	小林 清秀（こばやし きよひで）	府中農業委員会会長
	杉崎 則夫（すぎざき のりお）	府中観光協会理事
会長	千賀 裕太郎（せんが ゆうたろう）	東京農工大学大学院教授
	高谷 時彦（たかたに ときひこ）	東北公益文科大学教授
副会長	竹内 章（たけうち あきら）	市民委員
	田中 友章（たなか ともあき）	明治大学准教授
	並木 三郎（なみき さぶろう）	むさし府中商工会議所副会頭

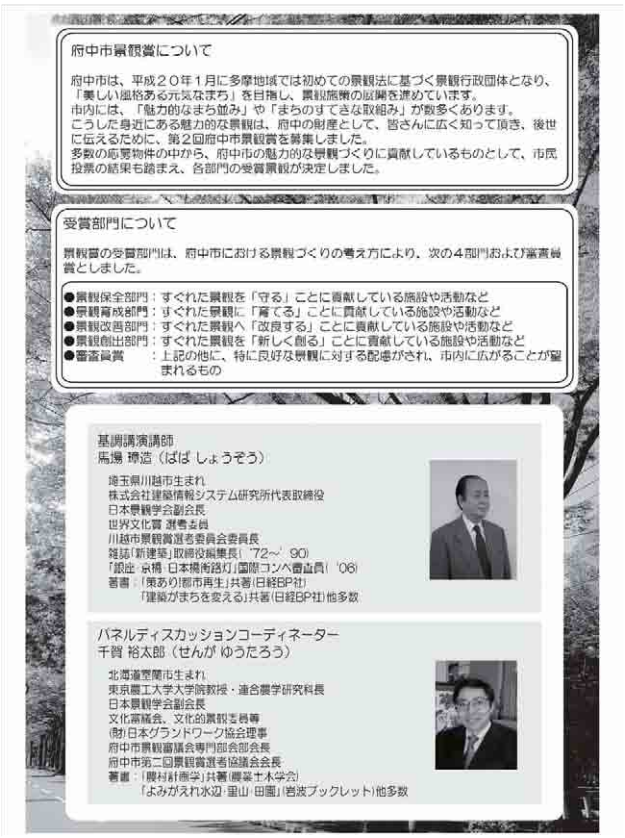
（五十音順）

7．ポスター等

●景観賞募集ポスター

●景観賞市民投票ポスター

●景観賞顕彰式、景観シンポジウムポスター・チラシ



第２回府中市景観賞　記録誌

発行日／平成２２年３月
編集・発行／都市整備部計画課
〒183-8703 東京都府中市宮西町２丁目２４番地
電話(042)364-4111(代表)、335-4412(計画課)
FAX(042)335-0499
ホームページ　http://www.city.fuchu.tokyo.jp/

府中市

府中市都市整備部計画課

〒183-8703 東京都府中市宮西町2丁目24番地

電話 (042) 335-4412 FAX (042) 335-0499

E-mail tosikei01@city.fuchu.tokyo.jp